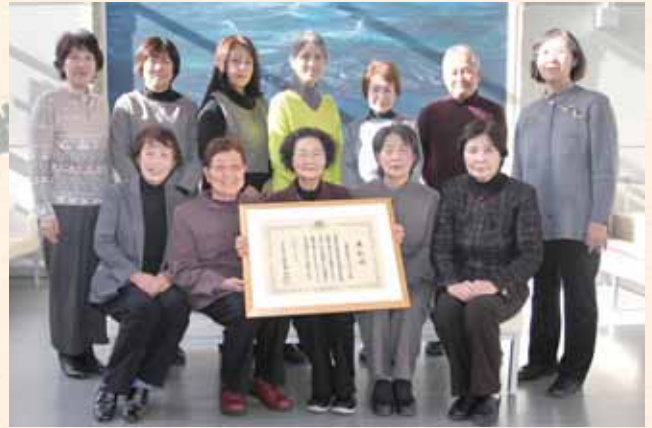


# 朗読ボランティアに文部科学大臣表彰

## 長年の功績に光

12月3日、山田町朗読ボランティアの皆さんが、文部科学大臣表彰を受賞しました。5日には、町長へ受賞したことを報告。代表の佐々木啓子さんは「身に余る光栄で、とても感激しています。」と、受賞の喜びを伝えました。

山田町朗読ボランティアの皆さんは、広報を目で見るのが難しい方に対し、町の広報紙などを朗読・録音した音声テープを届けています。これまでの長年にわたる活動が評価され、今回の受賞となりました。昭和62年から始まったこの活動は、東日本大震災で中断を余儀なくされました。津波により、当代表を務めていた昆加代



表彰状を手に喜びを表す山田町朗読ボランティアの皆さん



町中央公民館の視聴覚室で行われる収録。写真の様子も、豊かな表現で利用者に伝えています。

子さんが犠牲となり、会員も被災。「活動の継続が危ぶまれましたが、震災から半年後、会員の中から再開の声が上がりました」と佐々木さんは振り返ります。利用者の皆さんのために続けたいという使命感のもと現在まで継続されている朗読活動。利用してくれる方がいる限り続けていきたいと会員の皆さんは力を込めます。

受賞の報告を受けた町長は「町民の一員として誇りに思うと同時に敬意を表します。これまでの活動に光が届きました」とお祝いの言葉を伝えました。

### 日本家族計画協会会長表彰

## 佐々木助産師が受賞

11月7日に千葉県で行われた厚生労働省主催の「健やか親子21全国大会」において、本町の佐々木美智穂助産師が「日本家族計画協会会長表彰」を受賞しました。これは、これまでの助産師としての活動が評価されて受賞したものです。

佐々木助産師は、これまで15年間にわたり「命の授業」を実施。宮古地域の児童生徒のべ7千人に対して命の大切さを説き、10代の人工妊娠中絶率の減少に貢献しました。また、岩手県妊産婦メンタルヘルス調査委員として、医療と行政が連携する「岩手型妊産婦メンタルヘルス支援体制」を確立。他県からも注目される新しい手法で、児童

虐待予防に貢献しました。一方、学術面でもその力を発揮。共著した『岩手県宮古医療圏における東日本大震災前後の産後うつ発症率とリスク因子の検討』は、アメリカで論文として認められ、世界からも注目されました。

佐々木助産師は受賞について「喜び以上に驚きが大きいです」と一言。「児童虐待の負の連鎖をなくすためには、出産前からの支援が重要」と、活動の意義を強調します。「妊産婦が元気に子育てできるようにするのが私の使命」と、話す佐々木助産師は、町の保健師などと協力して「子育てに優しい町」を言葉に日々業務に取り組みんでいます。



健康子ども課 助産師  
**佐々木 美智穂**

【来歴】平成元年に県医療局へ入局。宮古病院看護師長などを経て、30年から町の助産師として子育て世代を支えている。

「子育てで大事なことは親の愛情を注ぐこと。些細なことでも気軽に相談してください」と、子育て世代に向けて力強くエールを送りました。